福井県立美術館 2016

美術館だより

MUSEUM NEWS Vol.151

contents

〈展覧会紹介〉「ランス美術館展
—ダヴィッドからピサロ、ゴーギャン、藤田嗣治まで」 [2～3]
〈イベント報告〉「岩佐又兵衛展」 [4～5]
「角喜代則の造形　森と自身との対話」 [5]
〈イベント報告〉「福井の彫刻・立体Vol.2　—角喜代則・岩本宇司の世界—」 [6]
〈テーマ展紹介〉「物語を紡ぐ」・新春展「酉の美術」 [7]
福井県立美術館友の会「平成28年度　秋の見学会」 [8]
美術館喫茶室ニホ特別メニューのお知らせ
それゆけ！ブブ広報部隊　其の六・其の七
お知らせ・貸館情報

表紙：リエ＝ルイ・ペラン＝サンブルー《ソフィー夫人（またの名を小さな王妃）の肖像》（部分）1776年
Reims, Musée des Beaux-Arts　©MBA Reims 2015/Christian Devleeschauwer.

2016年 11/5[土]－12/25[日] ランス美術館展

[休館日]11月21日(月)、28日(月)、12月5日(月)
[開館時間]午前9時～午後5時(入館は閉館30分前まで)
※11月5日(土)は午前11時～
[観覧料]一般1,400円(団体1,200円)
大高生1,000円(団体800円)、中小生600円(団体400円)
※団体は20名以上。※学生の方は学生証の提示が必要。
※障害者手帳等をお持ちの方とその介助者1名半額。
[主催]ランス美術館展実行委員会
(福井県立美術館、福井新聞社、福井放送)
[後援]在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ日本
[協力]エールフランス航空、G.H.マム
[企画監修]ランス美術館
Exposition produite et gérée par le
Musée des Beaux-Arts de la VILLE DE REIMS.
[企画協力]ブレーントラスト

シャンパンと大聖堂で名高いフランスの古都、ランス。1913年開館のランス美術館は、美酒シャンパンの富がもたらした、中世から現代におよぶ、その幅広いコレクションで世界的に知られる「フランス絵画の宝庫」です。

本展では、17世紀フランス宮廷画家から始まり、優雅なロココ様式、ダヴィッドに見る新古典主義からドラクロアのロマン派、19世紀の近代風景画、印象派からポスト印象派へと、「珠玉のフランス美術」を余す事なく展観します。

そして、ランスで洗礼を受けレオナール・フジタとなった、藤田嗣治の作品群が展覧会を彩ります。ランスは晩年のフジタが、かつてからの夢であった礼拝堂建築を成就したゆかりの地でもあります。今年は、藤田生誕から130年。大作《ノルマンディーの春》をはじめ、ひろしま美術館や熊本県立美術館が所蔵する、藤田嗣治の名品もあわせて特別公開されます。

ランス美術館の誇る名画の数々を心ゆくまでご堪能ください。

17世紀～19世紀 華麗なるフランス絵画 フランス絵画の巨匠がズラリ!

右：カミーユ・ピサロ《オペラ座通り、テアトル・フランセ広場》1898年
左：エドゥアール・デュビュッフ《ルイ・ポメリー夫人》1875年

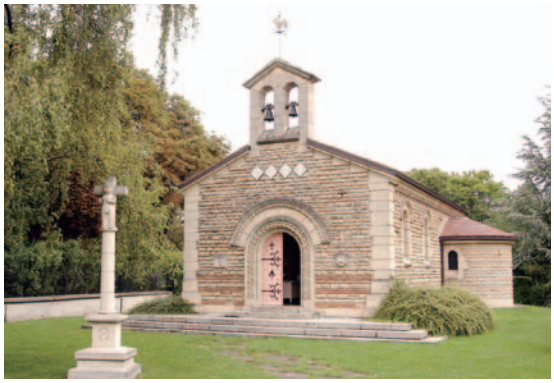
ランス〈Reims〉ってどんなとこ?

フランス北部のシャンパーニュ地方に位置するランス市は、パリから約150km離れ、街中にはシャンパンメゾンが軒を連ねるシャンパンの一大醸造地として広く知られる古都です。ランスはフランスの歴史にも度々登場する重要地で、街のシンボルでもあるノートル＝ダム大聖堂では、歴代のフランス国王が戴冠式を行ってきました。

～ダヴィッドからピサロ、ゴーギャン、藤田嗣治まで～

ランスに礼拝堂を建てた日本人 ～レオナール・フジタ～

ランスに礼拝堂を建てた一人の日本人がいました。海外で最も成功を収めた日本人画家、藤田嗣治（1886～1968）です。エコール・ド・パリの代表的な画家として活躍し、その代名詞である乳白色を用いた人物画で広く知られる藤田は、戦後になってフランスに帰化し、日本に戻ることなくフランスで晩年を過ごしました。そんな藤田は73歳の時にランスでカトリックの洗礼を受け、レオナール・フジタと改名しています。そしてランスでジャンパン会社を経営していたルネ・ラルーのすすめで、この地に念願叶って礼拝堂を建立しました。藤田の構想・デザインによるノートル＝ダム・ド・ラ・ペ礼拝堂（平和の聖母礼拝堂）の内壁は、キリスト教絵画を深く学んだ画家の集大成ともいえるフレスコ画が描かれています。今回の展覧会では、画家最後の大仕事であるこの壁画の原寸大デッサンをご覧いただきます。



ノートル＝ダム・ド・ラ・ペ礼拝堂（平和の聖母礼拝堂）

右：ジャック＝ルイ・ダヴィッド（および工房）《マラーの死》1793年7月13日以降
中：カミーユ・コロー《川辺の木陰で読む女》1865 ～ 1870年
左：ポール・ゴーギャン《バラと彫像》1889年

※作品はすべてランス美術館蔵。
Reims, Musée des Beaux-Arts ©MBA Reims 2015/Christian Devleeschauwer.

ランス美術館外観

ランス美術館内

Musée des Beaux-arts de Reims

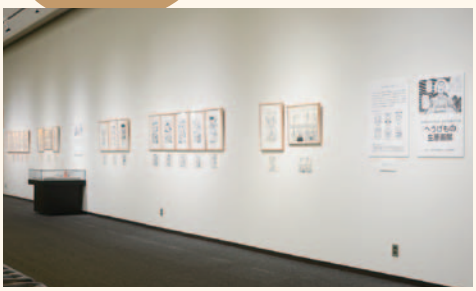
《イベント報告》

岩佐又兵衛展

福井移住400年記念

平成28年7/22[金]▶8/28[日]

17世紀前半に個性的作風で活躍し、近世絵画に大きな足跡を残した絵師岩佐又兵衛（1578～1650）。彼は39歳から約20年間を福井の地で過ごし、多くの代表作を描きました。本展覧会では、又兵衛が福井へ移住して今年で400年になるのを記念し、福井時代を中心とする40点を展示しました。それにあわせて会期中、記念講演会や座談会などのイベントを開催しました。又兵衛の代表作が集結した本展覧会は、多数の美術雑誌や各地方・全国紙にも取り上げられるなど、注目の展覧会として県内外から多くの来場者を集めました。また展覧会図録は会期中に完売、増刷しました。



『へうげもの』生原画展示

身振り手振りを交えて話す手塚特別館長

喫茶室ニホいっぱいの参加者

座談会風景

《関連イベント》

◉『へうげもの』生原画展

[日　時] 平成28年7月22日㈮～8月28日㈰
[会　場] 展覧会会場
[協　力] 山田芳裕＆講談社モーニング編集部

岩佐又兵衛展開催に合わせ、桃山文化をけん引した武将茶人・古田織部が主人公の人気漫画作品『へうげもの』（山田芳裕／講談社「モーニング」連載中）の生原画展を開催しました。本作は主人公織部、そして同時代の美の巨人・本阿弥光悦、俵屋宗達らと並んで、岩佐又兵衛が主要キャラクターとして登場する唯一の漫画作品です。会場には又兵衛の登場シーン37点を展示、作者の得意とする精緻なタッチによる生き生きとした人物描写を、原画を通してお楽しみいただきました。

◉手塚雄二特別館長ギャラリートーク

[日　時] 平成28年7月22日㈮　午後1時45分～
[会　場] 美術館講堂

当館の特別館長である手塚雄二氏に岩佐又兵衛の表現について日本画家の視点から、面白おかしく、そして熱く語って頂きました。

◉トークサロン「展覧会ができるまで」

[日　時] 平成28年7月30日㈯　午後5時～6時
[会　場] 美術館喫茶室ニホ

「岩佐又兵衛展」を担当した戸田浩之学芸員が、展覧会の見どころや絵巻の鑑賞方法などについてレクチャーしました。

◉記念座談会「もっと知りたい！岩佐又兵衛」

[日　時] 平成28年8月7日㈰　午後1時～3時
[会　場] 美術館講堂
[出席者] 深谷　大氏（早稲田大学演劇博物館招聘研究員）
畠山浩一氏（東北大学専門研究員）、筒井忠仁氏（文化庁文部科学技官）
廣海伸彦氏（出光美術館学芸員）、戸田浩之（司会・当館学芸員）

近年の江戸絵画ブームの中、岩佐又兵衛への関心も高まり、研究も活発に行われるようになりました。そこで本座談会では、又兵衛についてより多くの方々に興味を持っていただきたいとの趣旨から、若手研究者の方々にお集まりいただき、又兵衛について語っていただきました。

まず前半では、「岩佐又兵衛をめぐる人々」（畠山氏）、「岩佐又兵衛絵巻、ここが面白い！」（深谷氏）、「〈やまと絵師〉としての又兵衛」（廣海氏）、「国宝舟木本洛中洛外図の魅力」（筒井氏）の題で各自発表をいただきました。そして後半では、又兵衛の出自や作品の特徴、「浮世又兵衛」の位置付けなど、又兵衛研究のポイントについて、自由に討論していただきました。

当日、会場には県の内外から200名を超える幅広い年代の参加者が集まり、又兵衛への高い関心のほどがうかがえました。

岩佐又兵衛の代表作である国宝「洛中洛外図屏風（舟木本）」（東京国立博物館）と
重文「豊国祭礼図屏風」（徳川美術館）が8月6日、7日の2日間のみ揃い踏み！

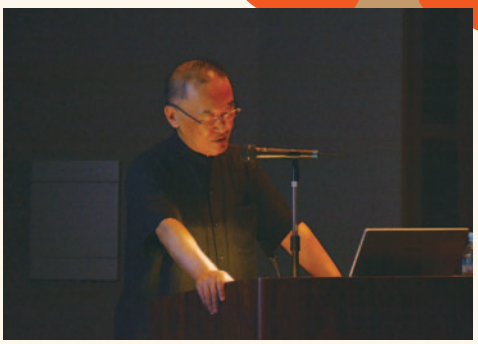
展覧会最期の3日間（8月26日～28日）、「旧金谷屏風」のうち、
現存する10幅すべてが100年の時を経て福井に集結しました！

◉記念講演会

[日　時] 平成28年8月21日㈰　午後1時30分～3時
[会　場] 美術館講堂
[演　題]「だれも描かなかったものを彼は描いた－岩佐又兵衛の絵画」
[講　師] 佐藤康宏氏（東京大学教授）

今回の記念講演会では、又兵衛研究でも著名な東京大学教授の佐藤康宏氏にお話しいただきました。まず寛永17年（1640）に制作された又兵衛唯一の年紀作「三十六歌仙図額」（埼玉・仙波東照宮蔵）に自ら記した「土佐光信末流」について、その意味を又兵衛作品との関係性の中で紹介されました。続いて又兵衛の代表作である旧金谷屏風の一図「伊勢物語　梓弓図」（文化庁蔵）を例に挙げ、伝統的な画題に対して又兵衛がどのように取り組み、そして新たな表現を獲得したのか、そこに表現された作者の意図などを、さまざまな資料と比較しながら述べられました。

会場は座談会同様、定員以上の参加者で埋まり、皆さん熱心に聴講されていました。

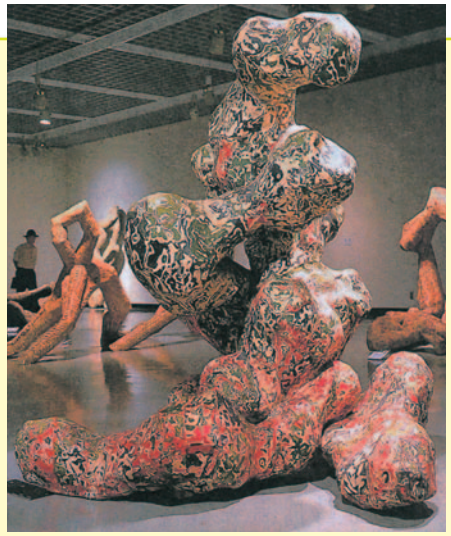


佐藤康宏氏

角喜代則の造形

森と自身との対話

西村 直樹（県立美術館主任学芸員）



角喜代則《生命体》2000年

角喜代則は紙を素材に独創的な造形作品をつくる作家である。

角の活動拠点今立は、古くからの「和紙」の産地で、彼は、製紙会社や個人業者から古紙を譲り受けたり、古新聞やパルプ等を集めたりして、それらを新しく生まれ変わらせ作品にしていく。

その工程は、紙管の組み合わせによる骨組みに、一枚一枚の紙を何万枚も貼り重ね、強靭な立体物をつくることから始まる。その立体物をグラインダーで膨大な時間をかけて削り出し、迫力ある形状の造形物をつくり出していくのである。

貼り重ね、削り出すことによって、中に隠れているさまざまな紙片や、新聞紙に刻まれた日々の事象が文様となって現れる。内部の層が浮かび上がり、独特の色を生み出していく。その蓄積された色は角自身の生命・感情の色であり、生きている中での楽しさ、哀しさの色でもあるという。

角は自らの作品を、森の中に漂う「精・気」と、彼自身の中にある「自然」との対話であると語った。紙は本来、森に茂る植物の繊維でできているのだから、植物が呼吸するように作品も呼吸し、植物の繊維でつくられた作品だから、自然の持つ強さや温かみを感じさせてくれるのだと。

角の作品が、エネルギッシュで力強く、かつ自然の原初的な形態を思わせるのは、このように森の「精・気」と、彼の中の「自然」が、膨大な創作時間によって熟成し結晶化した結果に他ならないのである。

※本文は、寄稿文（福井新聞、8月3日掲載）を抜粋・改稿した。

《イベント報告》

福井の彫刻・立体 Vol.2

― 角喜代則・岩本宇司の世界 ―

平成28年７月22日㈮～
８月28日㈰
主催　福井県立美術館

福井県立美術館では７月22日㈮から８月28日㈰まで、「福井の彫刻・立体 Vol.2　―角喜代則・岩本宇司の世界―」展を開催しました。

貼り重ねた紙を削り出し重量感あるフォルムと地層のような文様を併せ持つ生命感あふれる造形作品をつくり続けた角喜代則。木や廃材を素材にしなやかで力強いラインをつくり出し空間性を重視した独特の立体作品を生み出す岩本宇司。本展では、角喜代則と岩本宇司の世界に迫りました。

本展関連企画「岩本宇司のライヴドローイング『Session 01』」、「トークショー『岩本宇司と語る』」、「座談会『角喜代則を語る』」、「岩本宇司のライヴパフォーマンス『Session 02』、「トークショー『岩本宇司・亜樹と語る』」等、両作家の活動を検証する多彩なイベントも行われ、多くの方々にご来場いただくとともに、新聞、テレビ、ラジオ等のメディアで大きく扱われ、沢山の反響をいただきました。

ご来場いただいた皆様にこの場を借りて、お礼申し上げます。

《関連イベント》

◎岩本宇司のライヴドローイング「Session 01」
[日　　時] 7月31日㈰ 午後２時頃～
[場　　所] 福井県立美術館貸展示室
[パフォーマー] 岩本宇司(ドローイング)
上坂朋佑(パーカッション)
山田友雄(ギター)
[参加人数] 約50名

＊

◎トークショー「岩本宇司と語る」
[日　　時] 7月31日㈰ 午後４時頃～
[場　　所] 福井県立美術館貸展示室
[登 壇 者] 岩本宇司(出品作家)
西村直樹(福井県立美術館主任学芸員)
[参加人数] 約50名

＊

◎座談会「角喜代則を語る」
[日　　時] 8月11日(木･祝) 午後２時頃～
[場　　所] 福井県立美術館講堂
[登 壇 者] 半谷　学(美術家)
森岡千代子(アーティスト)
松村哲男(サポーター)
角　恵子(サポーター)
西村直樹(福井県立美術館主任学芸員)
[参加人数] 約50名

＊

◎岩本宇司のライヴパフォーマンス「Session 02」
[日　　時] 8月14日㈰ 午後２時頃～
[場　　所] 福井県立美術館貸展示室
[パフォーマー] 岩本宇司(ドローイング)
岩本亜樹(コンテンポラリーダンス)
[参加人数] 約120名

＊

◎トークショー「岩本宇司・亜樹と語る」
[日　　時] 8月14日㈰ 午後３時30分頃～
[場　　所] 福井県立美術館貸展示室
[登 壇 者] 岩本宇司(出品作家)
岩本亜樹(コンテンポラリーダンサー)
西村直樹(福井県立美術館主任学芸員)
[参加人数] 約120名

1.

2.

3.

4.

5.

1. 岩本宇司のライヴドローイング「Session 01」 左から、山田友雄、岩本宇司、上坂朋佑
2. トークショー「岩本宇司と語る」 左から、西村直樹、岩本宇司
3. 座談会「角喜代則を語る」 左から、半谷学、森岡千代子、松村哲男、角恵子、西村直樹
4. 岩本宇司のライヴパフォーマンス「Session 02」 左から、岩本亜樹、岩本宇司
5. トークショー「岩本宇司・亜樹と語る」 左から、西村直樹、岩本宇司、岩本亜樹

「物語を紡ぐ～描かれた物語の世界～」

今を生きる私たちがドラマや映画、あるいは漫画やアニメを通じて物語を楽しむのと同じように、昔の人々も物語を描いた絵＝物語絵を鑑賞して物語を享受していました。古事記や日本書紀に著された神話の世界、源氏物語や伊勢物語に代表される王朝文学、釈迦や聖徳太子の一代記を描いた仏教説話、あるいは西洋の神話や聖書など、古今東西さまざまな物語が描かれています。物語絵は時として物語の内容理解を助け、その紡がれたイメージの根底には、注文者や絵師の物語に対する共感や愛好を垣間見ることができます。そして詞（ことば）と絵を同時に楽しむ絵巻や絵本、イメージのみを抽出した屏風・掛け軸・扇面、あるいは江戸の庶民層に広く親しまれた浮世絵など、物語絵は長い年月のなかで多様に展開し、様々な表現を獲得しながら豊穣なイメージを築いてきました。

今回のテーマ展は、「物語を紡ぐ」というテーマの下、福井県立美術館が所蔵する15世紀から20世紀の東西にまたがる物語絵の名品を紹介します。文字（テキスト）から紡ぎだされた視覚世界（ヴィジュアルイメージ）に身をゆだね、物語の情景に思いを馳せてみてはいかがでしょう。

「源氏物語図屏風」江戸時代（17世紀）　越前市・永林寺蔵

小林古径「竹生島（妙音）」
明治33～40年（1900～1907）頃

同時開催

平成29年1月3日(火)～2月12日(日)

【休 館 日】1月16日(月)、30日(月)
【開館時間】午前9時～午後5時（入館は閉館30分前まで）
【観 覧 料】一般・大学生100円　＊20名以上の団体は2割引。＊高校生以下、70歳以上、障害者手帳等をお持ちの方は無料。
＊毎月第3日曜日「家庭の日」1月15日(日)は入場無料。

新春展「酉の美術」

鶴は長寿の瑞鳥であり、鷹は鳥の王者または権力の象徴として、そしてそれらの親子には子孫繁栄の願いが込められるなど、吉祥のモチーフとして鳥は様々な作品に登場します。本展では、平成29年の干支である酉（鳥類）が登場する美術を紹介します。

左：芸愛「鷹図」室町時代（16世紀）
中：菱田春草「温麗・躑躅双鳩」明治34年(1901)
右：狩野常信「花鳥図屏風（右隻）」江戸時代（17世紀）

福井県立美術館
友の会

〈平成28年度 秋の見学会〉

日　時◎平成28年10月4日(火)～6日(木)　参加人数◎20名
行き先◎福島県、山形県、宮城県

平成28年度友の会秋の見学会は2泊3日で東北へ。総勢20人の会員は、まず奥州藤原氏ゆかりの古刹である中尊寺と毛越寺をめぐり、夜は仙台の奥座敷と称される作並温泉で旅の疲れを癒しました。2日目は旬のブドウ狩りから始まり、芭蕉も訪れた山寺付近を散策。そして山寺芭蕉記念館では「芭蕉と江戸文化」を、山寺後藤美術館では常設展示で近代ヨーロッパ美術を鑑賞しました。昼食をはさんで、いざ山形美術館へ。豊富な西洋絵画のコレクションで知られる吉野石膏コレクションや地元の名家である長谷川家のコレクションが展示され、東西の名品を鑑賞しました。盛りだくさんの2日目を終えた一行は仙台市内に1泊し、最終日は仙台市博物館で特別展「雪舟と宮本武蔵と水墨画」展を、宮城県美術館では「ポーラ美術館コレクション」展を鑑賞。あまりの充実した内容に会員の皆さまからは時間が足りないとの声も…そして旅の締めくくりは伊達政宗ゆかりの禅刹・瑞巌寺。建物そのものが国宝に指定される本寺を巡った一行は、改めて東北の豊かな歴史に思いを馳せていたようです。

台風の影響が懸念された今回の見学会でしたが、弾丸ツアーで東北の名跡を巡る充実した旅行となりました。

山寺をバックに記念撮影

ランス美術館展スペシャルメニュー
「キッシュとほっこりスープのらんらんランスセット」1,000円

ランス美術館展の期間限定！さっくり香ばしく焼き上げた「本日のキッシュ」と、いろいろ野菜の旨みが詰まった「ラタトゥイユ」、フランスのゲラント塩で旨みを引き出した「チキンスープ」のセットです。

Contact
美術館喫茶室 二ホ
[open] 9:00～19:00　[closed] 月曜日　tel: 0776-43-0310 ＊無料Wi-fi＊
address: 〒910-0017 福井市文京3丁目16-1 福井県立美術館 正面左手
＊美術館が休館でも、月曜日以外は営業しております。

絵・文　ささきみほ

お知らせ

◎2016年11月～2017年1月の休館日について

展示替え、館内メンテナンス等のため、下記の日程は休館とさせていただきますのでご了承下さい。
11月1日㈫～4日㈮、21日㈪、28日㈪、12月5日㈪、26日㈪～2017年1月2日㈪、16日㈪、30日㈪

貸館情報 [2017/1/5~1/29]

1/5～9	第42回琢の会洋画展	1/19～22	第30回新彫会彫刻展
1/6～9	第10回スプリングアート合同展	1/20～22	第64回福井奎星書展 会員展・公募展
1/6～9	華陽会九人展	1/25～29	神内巍 絵画展
1/11～17	第2回アール・ブリュット展ふくい	1/27～29	第35回記念 愿泉書道展
1/12～15	第26回イーゼル会デッサン展	1/27～29	尚山会新春愛石展
1/13～15	書勢会展 ― 会員展　競書展	1/27～29	福井県独立書展

美術館だより第151号
編 集／発 行：福井県立美術館　〒910-0017 福井市文京3丁目16-1　tel.0776-25-0452　印 刷：河和田屋印刷株式会社　発行日：平成28年11月4日　16.11.20220